# 合角漣大橋見学記

編集委員会

去る4月18日，本誌編集委員会による合角漣大橋の現場見学会が開催されました。当日は天候にも恵まれ，絶好の見学会日和となり，13名の編集委員が参加しました。

架橋地点は近年，浦山ダム，合角ダム，滝沢ダムと開発が進められ，また，首都圏に近いリゾート地としての整備も行われている秩父リゾート地域の一角にあります。本橋はその合角ダム建設に伴い付け替えられる町道に架かる橋梁で，2径間連続PC斜張橋と2径間連続PC箱桁橋からなり，地域の新しいランドマークとして期待されています。とりわけ，2径間連続PC斜張橋は国内でも有数の規模を誇り，ちょうど本年4月から編集委員となった筆者には最初の行事であり，見学会の案内をもらった時から楽しみにしていました。

ダム本体工事と橋梁工事が見渡せる展望台で，本誌の元編集委員でもある富士ピー・エス住友建設特定建設工事共同企業体の菅野所長より，ダム本体も含めた全体工程について説明を受けた後，マイクロバスで移動し，湖底となる橋脚下端に取り付けられたエレベーターで橋面上へ上がり，張出し架設状況および施工時計測システムなどを見学することができました。

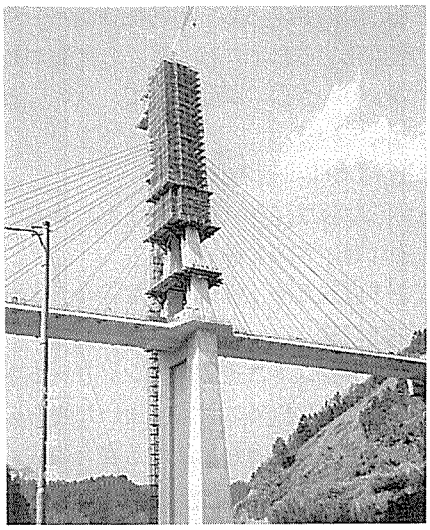


写真-1　主塔施工状況

ダム本体および2径間連続PC箱桁橋部分はほぼ完成しており，斜張橋工事はちょうど張出し架設を半分終え

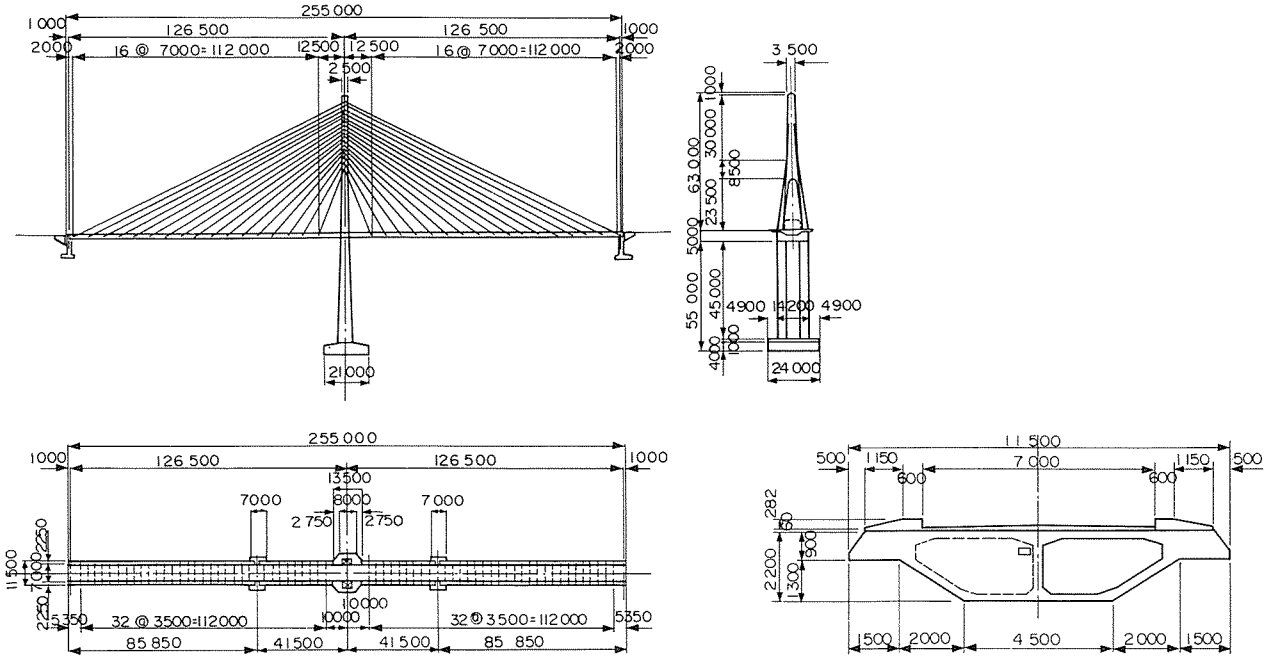


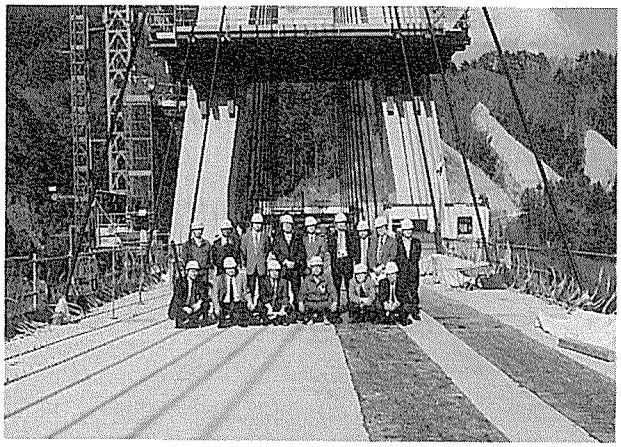

図-1　一　般　図

たところで見学には最も良い時期でした。工事の進捗は順調そうで，橋面工，施設工を含め平成9年8月末に竣工予定とのことです。

構造的特徴についての説明だけでなく，①橋脚工におけるアクリルフォームの採用と鉄筋のユニット化，②主桁打継ぎ処理の省力化を図るための特殊型枠の採用，③主塔に配置されるPC鋼材としてアフターボンド鋼棒の採用など，省力化，コストダウンのための方策やコンクリートの品質向上のための対策についても詳しく説明していただき大変参考になりました。

建設地がこのような雄大な渓谷であっても，ダム・斜張橋ともその存在感は小さいとは思えず，もし寄り添う形でこの2つの構造物があれば，少し自己主張しすぎになっていたかもしれません。ダム堤体上からは斜張橋遠景が得られ，また斜張橋橋面上からはダム遠景が得られるというふうに，ダムと斜張橋は近すぎず遠すぎず，お互い良い関係にあると感じました。

現場事務所の打合せ室に掛けられていた四季折々の施工中の斜張橋を撮った写真は非常に美しく，これから竣工までの1年あまりの間に，さらにコレクションがふえることでしょう。東京の桜はほぼ終わりを迎えた時期で



写真−2

したが，東京から約2時間半の当地はちょうど桜が満開の時期であり，日頃は季節の移り変わりなど感じることの少ないオフィスでの生活に慣らされた筆者には，心地よい一日でもありました。

最後に貴重な時間を割き，現場案内の労をいただきました富士ピー・エス住友建設特定建設工事共同企業体の方々に心よりお礼申し上げます。

【文責：日原邦夫（清水建設（株）土木本部技術第1部）】